



愛育のこころ
 すこやかな母親からすこやかな子が生まれます。
 よい環境がその子をつくります。
 生きることの価値は
 何かができるよろこびを味わうことです。

「故 望月弘子県愛育連参与採録」を一部抜粋

創立 60 周年 記念号

愛育だより

編集発行
 山梨県愛育連合会
 甲府市丸の内1-6-1
 山梨県子育て次世代サポート課内
 ☎055-223-1425

創立60周年を迎えて
 山梨県愛育連合会 会長 石原まゆみ



平素より、連合会の活動に深いご理解とご協力を賜り、幾重にも感謝を申し上げます。

令和7年度、皆様の地域での活動はいかがでしたでしょうか。

おかげさまで、山梨県愛育連合会は多くの班員・育成者・関係団体の皆様のご支援のもと、記念すべき創立60周年を迎えることができました。

愛育のこころを未来へつなぐ
 山梨県こども次世代統括官 小澤理恵



世代サポート課、各管内保健所と共に、活動の道しるべとなるべく、使命を胸に、

今後も研鑽を重ねてまいります。

長きにわたり、母と子の健やかな成長と地域の健康づくりにご尽力いただいている皆様に、心より敬意と感謝を申し上げます。本年、山梨県愛育連合会は創立60周年という節目を迎え、これまでの歩みを振り返りながら、未来への新たな一歩を踏み出されました。記念大会では、活動の担い手不足といった課題が語られる一方、無理せずできるこ

とを続ける姿勢で、工夫を重ねながら活動を継続されている様子に、深く感銘を受けました。近年、人々とのつながりが希薄化し、子育てに不安を抱える母親や孤立する家庭が増えております。こうした状況において、愛育のこころを次世代へとつなぎ、地域に根ざした支援を共に進めていくことは、ますます重要です。これからの未来に向けて、皆様の思いやりに満ちた活動が輝き続けることを心から願い、県としても力を尽くしてまいります。

スローガン
 育てよう地域の力ですこやかな子に
 声かけ、見守りで母と子すべての人に愛育のこころを

山梨県愛育連合会 創立60周年記念特集



記念式典

知事表彰・会長表彰の他、この10年間で山梨県愛育連合会の活動に御尽力いただいた方々に感謝状の贈呈も行いました。

講演「母子保健を巡る社会情勢と私たち山梨県の取り組み」

講師 山梨大学大学院総合研究部医学域臨床医学系婦人科学教室 教授 吉野 修 氏



講演では、山梨大学産婦人科 吉野修教授に「母子保健を巡る社会情勢と私たち山梨県の取り組み」と題し、妊娠前からの健康管理を指す「プレコンセプションケア」についてや愛育班員に今後意識してもらいたい三（三）点（月経痛で苦しんでいたら受診勧奨・口腔ケア・家庭の味を見直す）についてお話しいただきました。

記念講演

今に息づく愛育の「こころ」変化の時代に思いやりを繋ぐ

パネルディスカッション「大切にしてきたことを未来へ」



パネルディスカッションでは「大切にしてきたことを未来へ」というテーマのもと、四名のパネリスト（韮崎市愛育会 山本幸子氏、山中湖村愛育会 高村里子氏、身延町役場 遠藤睦美保健師、中北保健福祉事務所 小林由紀子保健師）とアドバイザーとして吉野修教授に御登壇いただきました。未来へ活動を続けていけるよう、時代の変化と共に活動を工夫している様子を語っていただきました。

愛育のこころが響き合うひととき「音楽がつなぐ思いやりの輪」



記念講演ラストは、声楽家の志村糧一氏、ピアノの宮内史織氏によるコンサートで締めくくりました。

創立60周年記念大会(第68回愛育大会)に参加して

令和7年10月16日

第一部

第六十八回

山梨県愛育大会 第一部

中央市愛育会 鷹野利美

十月十六日に山梨県立文学館講堂において『今に息づく愛育のこころ』変化の時代に思いやりをつなぐ』をテーマに(第六十八回山梨県愛育大会、山梨県愛育連合会創立六十周年記念大会)を開催しました。

愛育大会は地域の人々の健康と幸せを願い、班員・母子保健関係者・県民の皆様に参加いただき、愛育の心を広め母子保健の向上を目的に毎年開催されます。今回も各地域の班員や関係者約三百人が出席しました。

山梨県副知事石寺淳一様、県愛育連合会石原まゆみ会長より班員の日頃の活動に対して感謝のお言葉を頂きました。続いて、母子保健功労者表

彰が行われ、知事表彰は個人六名と団体二地区が受賞されました。また、県愛育連合会長表彰を六名が受賞されました。さらに、創立六十周年を記念して、県愛育連合会長感謝状が班員十七名と育成者七名に贈呈されました。

昭和四十年三月に県下六十市町村が団結し山梨県愛育連合会を設立し、今日まで多くの愛育の歴史を刻んできました。愛育会の活動は、子どもたちの健やかな成長を願い、地域のつながりを深める重要な役割を担っています。今後も地域の健康づくり、人づくりのために班員同士の連携を深めて活動の輪を広げていこうと思います。



第二部

愛育大会(第二部)

記念事業

北新地区愛育会 中島真史

第二部は山梨大学医学部産婦人科吉野修教授の「母子保健を巡る社会情勢と私たち山梨県の取り組み」と題した記念講演で始まりました。山梨県は、人口減少の歯止めをかけるべく、全国に先駆けて「人口減少危機突破宣言」として対策を行っている」と説明がありました。現状は、年間約四千人の出生に留まり、人口七十八万人の維持には倍の八千人の出生が必要で、そのために妊娠前からの健康管理が大切であることや、山梨県は食塩摂取量が目標より多いと話があり、会場から「やはり」との声が聞こえました。愛育会には「月経痛で苦しんでいたら、病院受診」「お口のケア」「家庭の味の見直し」の

三点を声かけの中で地域に広め、「プレコンセプションを支える愛育会活動」として、人々のライフコース(一生)を支えて欲しいとの話がありました。

次に石原会長の進行で「大切にしてきたことを未来へ」と題して、愛育班員から二名、育成者から二名が、活動を通しての取組みを発表し、意見交換を行いました。会場で聞いていた班員から「参考になった」や「大変でしたね」と、声をかけ合う様子が見られました。

最後に、山梨県出身で音楽家テノール歌手の志村糧一氏が「音楽がつなぐ思いやりの輪」と題し、四曲歌い、会場はコンサート会場のような大変な盛り上がりを見せました。締めくくりは山梨県愛育連合会歌を全員で合唱し、楽しい雰囲気での記念事業を終えました。

今大会を通じて得た絆と経験を大切にこれからも地域と共に歩んでいきます。

つなげよう愛育のこころとちから

「ふれあいくらぶ」と「おやくらぶ」

羽黒地区連合会・愛育会 上條孝子

平成二十八年度から休止していた愛育活動を、令和二年度より再開しました。

再開にあたり、自治会への働きかけや班員の話し合いを重ね、準備を進めてきました。

現在は高齢者の機能訓練事業「ふれあいくらぶ」と子育て支援「おやくらぶ」を中心に活動しています。

ふれあいくらぶでは、毎月二回、誰でも無理なくできるチアリーダーや音楽に合わせて楽しくストレッチをしています。おやくらぶでは、季節のイベントに併せて、手型スタ

ンプや写真スポットで記念撮影など、思い出に残るように開催をしています。

年々、参加者が増え、地域の輪が広がっています。



無理なく、楽しく

大国地区女性部愛育会 遠藤文字

高齢者の機能訓練事業「ふれあいくらぶ」や子育て支援を通して、参加者と愛育班員がコミュニケーションを取

り、地域の輪が広がっていることを実感します。長年の協力者がいることも私たちの強みです。引き続き、無理なく楽しく声かけや見守りを頑張っていきたいです。



これからの愛育活動を探る

北杜市母子愛育会 波木井みゆき

北杜市母子愛育会は、今年創立二十周年を迎えました。これまでの諸先輩の皆様方の確かな歩みに心から感謝します。

これからの愛育活動を考えると、何をすべきなのか、たくさんのかたを話し合っています。

令和六年度は、「かならずやってくるその時に。愛育班員として何ができるのか」を揚げ、防災をテーマに避難所などで出来ることを研修しました。研修を通して得た知識を基に、愛育班員として出来ることを見つけられたこ

とは、大きな成果でした。令和七年の研修では、声かけの質の向上を図るべく、自分たちの持っている可能性を見つけていこうと考えられています。近所に赤ちゃんがいないのだから、愛育班員はいらないのではないかと、残念な問いに、班員自らが、その意義や必要

性を敢然と応えられるよう、明確な答えを見つけていこうと思います。

これからの愛育活動をよりよいものにしていくには、課題に向き合い、考えを出し合うことが求められます。班員の皆様が誇りとやりがいを持てるよう、学ぶ機会を設けていきたいと思います。



特集 いまこそ防災を考えよう



愛育の心で
つなぐ未来

笛吹市愛育連合会

甘利順子

私の地域では少子・高齢化が進み、小学校は全学年が一クラスです。こうした中、子育て支援ではお子さんが誕生したお宅を訪問し、絵本を贈って健やかな成長を願います。これがきっかけとなり買い物先などで声を掛け合える関係が生まれます。また、若い母親に地域を知ってもらうため、毎年、夏祭りに誘いポップコーンを配布し交流の場をもちます。今年「受動喫煙防止」のパンフレットの配布ができました。さらに、夏休みには児童館で折り紙や将棋な

ど昔ながらの遊びを通じて子どもたちと楽しく交流の場を持つことも出来ました。

高齢者支援では、80歳以上の方へ靴下を贈る恒例活動が続いています。訪問時にはお茶をいただきながら健康確認や会話を行い、元気を届けています。分班長会議では活動報告を共有し、「声かけメモ」を提出しています。このメモは地域の財産であり、増えることが喜びです。活動を通じて、地域とのつながりの大切さを実感しています。

誰かとながらることの大切さを伝えるため、この活動を守り続けたい、今後も分班長や保健師と「愛育の心」を共有し、地域の心身の健康づくりのために「声かけ」「見守り」「話し合い学習」を継続し、困った時に頼れる安心な生活を支える「信頼の輪」を広げていきたいと願っています。



つなげよう
愛育の心

早川町愛育会赤沢分班

望月和枝

少子高齢化や人口減少が著しく進んでいる早川町ではありますが、そのような中でも、長年に渡り愛育会活動を支えてくださる諸先輩方や保健師さんに、心より感謝申し上げます。地域住民がいつまでも健康で、生きがいを持ち安心して暮らせる町づくりには、日々の声かけや見守り活動がとても大切です。そのため、年六回の分班長会議では、各分班が地域で行っている活動内容を共有し、早川町愛育会としての活動内容を話し合っています。

令和六年度の町外研修は、「現在の子育て支援を学び、愛育活動に活かそう!!」をテーマに、産前産後ケアセンター「ママの里」に伺いました。助産師さんが常駐しているので、利用するママたちは安心してゆっくり過ごすことができると感じました。また、助産師さんや利用しているママ同士の交流、施設内イベントを通して、育児の悩みや睡眠不足の解消、リフレッシュもできる素晴らしい施設だと思いました。ママの里の見学後、さつそく妊産婦さんたちに利用のお勧めをしました。

令和七年十二月に実施された乳幼児健診のお手伝いに出向いたとき、ママの里を利用し

たお母さんからお話を伺うことが出来ました。「ママの里を利用してよかった」という感想をお聞きし、私たちが愛育会の活動がそのお母さんのお役に立てたことに幸せを感じました。これからも、隣保共助の繋がりを大切にし、愛育活動に活かしていきたいと思えます。



つなげよう愛育のこころとちから

つなげよう愛育のこころとちから

「声かけ・見守り」を大切に

大月市愛育会

瀧元静美

「声かけは日常のあいさつの延長です」は先輩からの教えです。しかし、愛育職員になって日が浅い私は、日頃からご近所の方々にあいさつをしたり、お話ししたりしていましたが、いざ「声かけ」をするとなるとどのようにすればよいのだろうと戸惑う気持ちもありました。

声かけメモの冊子が十周年の記念に作成され、この冊子は私に勇気を与えてくれました。自宅前は通学路で、小学生が並んで登校しています。私は「おはようございます。

お気をつけて」「いってらっしゃい」と声をかけていました。今までは気づかなかつたのですが、冊子のおかげで、これも「声かけ・見守り」につながっているのだと実感しました。冊子を読み進めると、先輩方のあたたかい心が伝わってきます。

うと考えています。散歩中にお会いする方も、電車で乗り合わせの方にも、ごあいさつを通して「声かけ」をして、お天気の話や日頃の様子などをお話しできればと思います。「継続は力なり」、この言葉を胸に、少しずつ愛育活動を続けていきたいと思っています。冊子を作って下さった方々に心より感謝いたします。



恩賜財団母子愛育会 総裁御視察

当県の愛育会活動などの御視察のため、恩賜財団母子愛育会総裁である秋篠宮皇嗣妃殿下が来県されました。常磐ホテルにて保健師らと懇談され、愛育職員と両輪となり地域に寄り添った愛育活動を展開している様子をお聞きになりました。

午後は中央市愛育会によるB a b y サロンに参加されました。



家庭の養育力 強化研修会に参加して

富士川町愛育会 杉智津

近年、プレコンセプションケアという言葉が聞くようになりましたが、その内容を理解できずにいました。今回の研修を受け、将来の妊娠を考えて、男女ともに妊娠前から心身の健康管理を行うことで、健やかな妊娠・出産と次世代の赤ちゃんの健康、そして自分自身の豊かな生活実現につながることを知ることができました。

現代の女性の月経回数が多さ、月経が痛いものであるのはあたり前でないこと、それには治療が必要なることを知りました。また、低出生体重児は将来の肥満につながる可能性が高いことも知りました。

一般的に妊娠・出産には適齢期があると言われていています。女性も社会で活躍する現代では、若い人にこそ正しい知識を与えて、出産の有無に関わらず、選択肢を増やしてほしいと思います。そのため中高生にこそプレコンセプションケアを伝える仕組みが出来ることを願います。



令和七年度山梨県愛育連合会定期総会が五月二十二日びゅあ総合二階大研修室において開催されました。

山梨県愛育連合会
定期総会
山中湖村愛育会
坂本 あゆみ

令和7年度
定期総会
令和7年6月22日



都留市 おくあきるとくん(6才)

愛育のうたの合唱で心をひとつにして始まり、石原会長の「愛育の心は人を思いやる心」、山梨県子育て・次世代サポート課小林課長の「持続可能な愛育事業活動を」との挨拶が続き、議事に入りました。議案は全て承認され、秋の六十周年記念事業に向けスタートしました。



理事・リーダー研修に参加して
笛吹市愛育連合会 深山礼

令和七年度山梨県愛育連合会理事・リーダー研修会に参加しました。テーマは「どうしたら『愛育のこころ』を伝え続けられるか」。研修では長年先頭に立ち、愛育活動を続けてこられた峡南保健所管内愛育連合会長齊藤光江様と甲府市愛育連合会長山本秀樹様より「リーダーとして大切にしてきたこと」について体験発表がありました。お二人の活動は決して順調なものではなく、壁にぶつかるとも多かつたそうです。そうした厳しい状況に陥った時にも決して愛育活動への熱い思いの炎を消すことなく、更に思いを大きくし、

この機会に、自分の愛育への気持ちはどうなのか、壁にぶち当たった際に乗り越えるすべはあるのかと顧みた時に、まだ経験の浅い自分には何もないことに気付き、情けない思いでいっぱいになりました。そんな中、心に残った先輩のことば『出来る時に、出来る人が、出来ることを無理せず』というものでした。この言葉を胸に、愛育のこころを伝え、活発な愛育活動を進めていきたいと思っています。

受賞に輝く人々



恩賜財団母子愛育会 愛育班員の手記「優秀作」

一人じゃないと思える
安心と信頼をもてる
地域にしたい



笛吹市愛育連合会
前澤 美代子

愛育班の活動は、広報などで知ってはいましたが、仕事を引退してから活動するイメージをしていました。しかし、子どもが社会人となり、仕事も役職が付き忙しくなるというタイミングで班員の順番がやってきました。最初はちょっと無理かなと思いましたが、会議に出てみると、コロナ禍でも地域の子どもやお母さんのために「声かけ、見守り」を継続している方がいることに心を打たれました。むしろコロナ禍の閉塞された環境だからこそ、顔を見て声をかけ、見守ってくださる人の存在は重要だと思いました。

現在、いろいろな情報があふれる中、正確で思いのこもった活字の「愛育班だより」は、迷えるお母さんの支援になるのではと提案し、メンバーのみなさんが同意をして下さいました。趣味でヨガを極めていた班員はストレス解消のヨガのポーズ、鍼灸師の班員は身体ツボ、看護師からはストレスと免疫について、年末のお掃除の智慧、地域に伝わるお料理レシピ、お孫さんのいる方は絵本の紹介など、得意分野を紹介する形で、一年に3回から4回発行しました。近所の方から「愛育班だよりが楽しみにになった」「温かさを感じる」など感想をいただくことが多くあり、中には、簡単レシピを紹介してほしいという要望があり、班員みんなで、レシピの選択をし、試作をして、工程を写真にして掲載しました。愛育だよりを通してコミュニケーションが活発になり、いつしか愛育だよりのアイデアを出すときが一番楽しい時間となりました。

愛育班3年目、笛吹市子育て支援課企画で、未就学児の保護者を対象とした研修会において、愛育班は託児のお手伝いをしました。久しぶりに2歳から5歳くらいのお子様と一緒に過ごしました。研修会終了後、あるお母さまから「うちの子は健診で障害かもと言

われ、ずっと外には出さず家で過ごしていました。大丈夫でしたか？」と心配そうでした。私たちは「楽しく遊んでいて、ほかの子にもおもちゃを持ってきたり、お片づけをしたりと良い子でした」と伝えると、お母さまは「思いきって来てよかった。この子のためにも良かった」と涙ぐみながら言いま

第57回
愛育班員全国大会
令和7年4月

◆恩賜財団母子愛育会 愛育班活動功労者表彰 〈愛育班員〉

- 山本 秀樹(甲府市)
- 吉田富士子(都留市)
- 〈団体〉
小菅村愛育会(小菅村)

◆優秀作 前澤美代子(笛吹市)



した。私たちは「みんなそうやって不安を抱きながら、それでも支え合ってきたのよ。大丈夫」と伝えました。その時「一人じゃないと思える安心と信頼をもてる地域にしたい」と、愛育班員と保健師さんで誓い合いました。課題はありますが、丁寧な関りを継続していきたいと思えます。

◆山梨県知事表彰 〈愛育班員〉

- 鷹野 史子(甲府市)
- 河西 鋭子(中央市)
- 山本 栄子(北杜市)
- 立田ハル子(山中湖村)
- 〈愛育班育成者〉
浅川 瑞江(甲府市)
- 〈母子保健育成者〉
岡田 恵子(甲府市)
- 〈団体〉
大里地区女性部愛育会(甲府市)
- 中央市愛育会(中央市)

◆山梨県愛育連合会会長表彰

- 小林 清巳(甲府市)
- 岩波 明美(甲斐市)
- 小尾 春美(北杜市)
- 今村 文子(身延町)
- 加藤 弘子(小菅村)
- 奥秋 弘美(大月市)

編集後記

第七三号発行にあたり、ご多忙の中多くの方々にご協力いただきありがとうございます。今回は県愛育連創立六十周年という記念すべき年度にあたりました。大いに盛り上がった記念大会の様子を一人でも多くの班員さんと分かち合いたいと思い、紙面を多く割きました。

次の十年につなげていくよう、実に多くの班員さんがそれぞれの地域でがんばっていることを実感いただければ幸いです。
(令和8年2月16日時点)

編集委員

- 委員長 山本 幸子 中北
- 委員 中島 真史 甲府市
- 委員 天野 真弓 峡東
- 委員 望月 綾子 峡南
- 委員 小林九三子 富士東部